

町工場プライド品質。

小さな町工場の

大逆転物語。

私たち『笑's-SHO's-』が生まれたのは2008年12月のこと。小さな金属加工の町工場の生き残りかけた大きな挑戦でした。当時私たちはリーマンショックの荒波の中にいました。月1千万円あった親会社からの注文が5千円に。毎月何百万単位の持ち出し。小さな町工場は沈没直前。「どうせつぶれるなら、やりたいことをやらせてくれ」取引先に頭下げて仕事貰って、「いい」という親父の怒鳴り声をBGMに、夢だった自社製品の開発に取り組みました。仕事が忙しかった頃、土曜残業終わりに車をとばしてソロキャンパーへと逃げる時間。焚き火をばーつと眺めることで、自分を取り戻すことが出来た。だから『やっぱ、焚き火つしょ！』自分の好きなものを創ってみよう。そうして生まれたのがソロキャンパー・ソロ焚き火をコンセプトにしたブランド、『笑's-SHO's-』でした。

ソロキャンパー社長が、

自分のために創った、

ザ・オリジナル。

当時既存の焚火台は夜駆け朝焚き火昼帰りの私には大きすぎました。さつと取り出せて、現地調達の湿った木を燃やせる高燃焼性を備え、調理もできて焚き火跡も残さない。『コンパクト焚き火グリルちび火君』にソロキャンパーのこだわりを詰め込みました。こだわりはソロキャンパー達に伝わり、アウトドア専門誌にとりあげられ、次第に軌道に乗り始めました。創って認められたらもう止まりません。次々と商品を開発し、のちに『メタル賽銭箱』として知られるB-G君が誕生。実は原付バイクキャンパーの仲間の「500g切れるB-G」という挑発に乗って作りました。(笑)そのB-G君が『ゆるキャン』で主人公リンちゃんの相棒となり、多くのキャンパーに知って貰えるように。製

品は評判を呼び、ソロキャンパー商品として異例のヒット。小さな町工場は、小さなキャンパー用品メーカーになりました。

メイド・イン・

ジャパン。

メイド・イン・町工場。

町工場プライド品質。こだわりぬいた製品設計と職人の仕事にわたしたちの誇りです。私自身は、初期に創った製品を今も繰り返し使っています。焚き火の炎にさらされながら、長く使える耐久性や、コンパクトに折りたたむための機能性の為に、私たちは独自に特許技術も開発しました。大事に使いたい。なぜなら、焚き火台はソロキャンパーの相棒ですから。焚き火と言えば『笑's-SHO's-』。そう言っていただけに、これからも町工場プライドでより良い製品をつくってまいります。

Open-Air Fire Studio

笑's-SHO's-



<https://ameblo.jp/densetunotakibiman/>



<http://shop.sho-s.jp/>



<https://www.facebook.com/shos.jp>



https://twitter.com/SHO_s_official